

1 病気の概要

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスにより発生する疾病で、蚊を介して感染します。以前は子どもや高齢者に多くみられた病気です。突然の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、意識障害や麻痺等の神経系の障害を引き起こす病気で、後遺症を残すことや死に至ることもあります。

2 ワクチンの効果

ワクチン接種により、日本脳炎の罹患リスクを75～95%減らすことができると報告されています。

3 接種の対象者とスケジュール

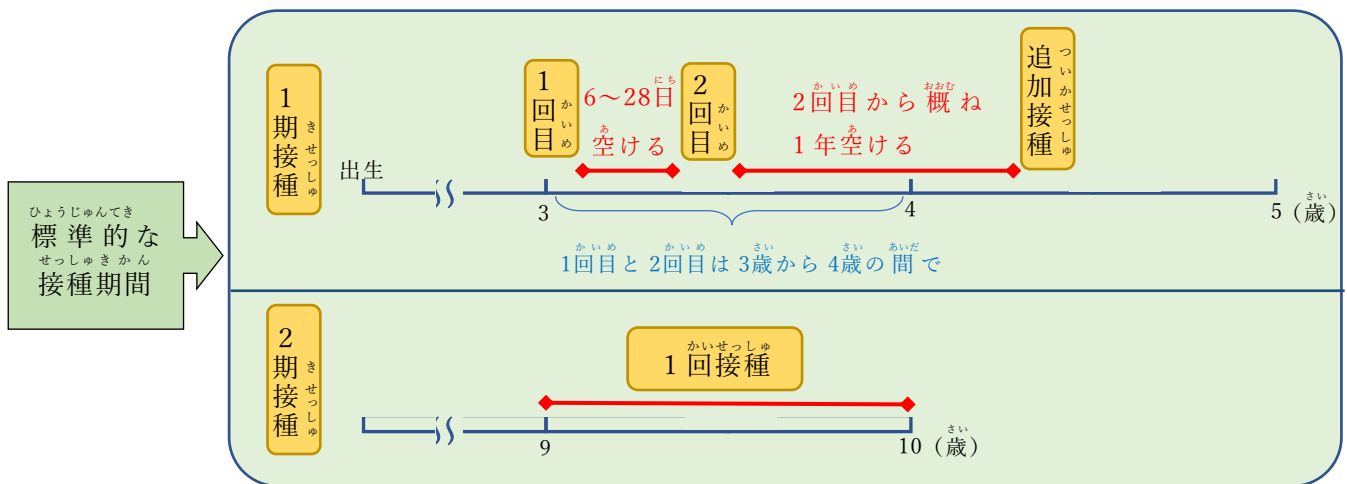
【1期接種】

初回接種については3歳～4歳の期間に6～28日までの間隔をおいて2回

追加接種については2回目の接種を行ってから概ね1年を経過した時期に1回の接種を行います。

【2期接種】

9歳～10歳までの期間に1回の接種を行います。



4 使用するワクチン

日本脳炎ワクチンは、接種することで日本脳炎の罹患リスクを減らす効果がある不活化ワクチンです。

現在使用されている「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」は、日本脳炎ウイルスをVero細胞（アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞）で増殖させて、得られたウイルスを採取し、ホルマリンで不活化（感染性を失くすこと）して製造されています。このワクチンは、2009年6月2日以降、定期の第1期予防接種にのみ使用可能とされてきましたが、2010年8月27日以降は第2期の予防接種にも使用可能となりました。

なお、過去に使用されていたマウス脳由来の日本脳炎ワクチンは、既に流通しておらず、定期接種にも用いられていません。

5 ワクチンの安全性

生後6か月以上90か月（7歳半）未満の小児で、以下の副反応が認められたとされています。

主なものは発熱、せき、鼻水、注射部位の紅斑や腫れ、発疹などで、これらの副反応のほとんどは接種3日後までにみられています。なお、ごくまれにショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応がみられることがあります。（「乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン」の添付文書より）

6 接種を受けられない方

以下の方は、接種を受けることができません。

* 日本脳炎ワクチンの成分でアナフィラキシーを起こしたことがある方

また、以下のような場合は接種を受けることができませんので、治ってから受けるようにしてください。

- * 発熱している。
- * 重篤な急性疾患にかかっている。

7 接種に注意が必要な方

以下の方は、接種にあたって注意が必要なので、あらかじめ医師に相談してください。

- * 心臓、腎臓、肝臓、血液の病気や発育障害がある方
- * これまでに、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方
- * けいれんを起こしたことがある方
- * 免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- * 日本脳炎ワクチンの成分でアレルギーを起こすおそれのある方

8 接種後の注意点

予防接種後はしばらくの間、接種した医療機関において、何も体調に変わりがないことを確認してから帰宅しましょう。まれに接種直後に副反応が起きることがあり、医療機関内にいれはすぐに対応できるからです。

ワクチンを接種した後に、なにか気になる症状があった場合は、まずは接種した医療機関の医師にご相談ください。

9 健康被害救済制度

定期の予防接種による副反応のために、医療機関で治療が必要な場合や生活が不自由になった場合（健康被害）は、法律に定められた救済制度（健康被害救済制度）があります。田川市民の方で制度の利用を申し込むときは、田川市保健センターにご相談ください。（制度利用には、一定の条件有り）

（参考）

こうせいろうどうしやう
[厚生労働省]
よぼうせつしゆ
予防接種・
じやうほう
ワクチン情報



こうせいろうどうしやう
[厚生労働省]
よぼうせつしゆけんこう
予防接種健康
ひがいきゆうさいせいど
被害救済制度



たがわし
[田川市]
よぼうせつしゆ
予防接種の
あんない
ご案内



ふくおかけんない
福岡県内
よぼうせつしゆ
予防接種
たんとうか
担当課



【問い合わせ先】 予防接種に関するご相談等は、住民票のある市区町村にご連絡下さい。

たがわしふくしよほけんふくしよほけん
田川市福祉部保健福祉課保健センター TEL 0947-44-8270

※この説明書は、主に厚生労働省のHPを元として、田川市保健センターが作成しています。

【裏面もご覧ください】